

千代田まちづくり サポート通信

2025 JULY ISSUE No.43

2025
7

JULY



第24回 千代田まちづくりサポート



第24回 千代田まちづくりサポート 活動成果発表会

〔目次〕

- P1 事業・活動成果発表会の概要
- P2～10 助成グループ活動成果発表
- P11 千代田まちづくりサポート大賞
- P12 審査会委員講評
- P13～14 写真集

支援しています。 まちづくり活動を

Chiyo da No Machisapo

まちサポ応援
キャラクター
「ちよすけ」

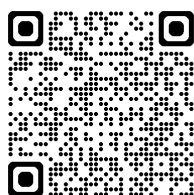


千代田まちづくりサポート（まちサポ）は、
千代田区を元気ある、住みよい魅力的なまちにする
市民の自主的で主体的なまちづくり活動を行っているグループに対して、
その活動経費の一部を助成する事業です。

まちづくり活動とは、
「地域に元気をもたらし、コミュニティの活性化に貢献する活動」、
「現在、将来にわたって住みよい魅力的な都市環境づくりに貢献する活動」のことです。

第24回千代田まちづくりサポートについては、事業の見直し検討を行うため、
新規募集を行わず、第23回に助成を受けたグループを対象に応募を受付しました。
応募内容を、事務局にて審査のうえ、助成グループを決定しています。

ウェブサイト
QRコード



本誌では、令和7年4月20日(日)に開催された
活動成果発表会の様子をお届けします。
まちづくり活動にご興味を持っていただけると幸いです。

なお、今まで発行してきた「サポート通信」については、
財団ウェブサイトでご覧いただくことができますので、
是非、ご一読ください。



Program

- 13:00 開会
- 13:20 活動成果発表
5グループ（発表5分：質疑応答5分）
- 14:10 休憩
- 14:20 活動成果発表
2グループ（発表5分：質疑応答5分）
年度報告（普請部門）
2グループ（発表5分：質疑応答5分）
- 15:00 休憩 ※サポート大賞投票
- 15:15 全体講評（第25回審査会会長・副会長）
- 15:20 サポート大賞発表
- 15:40 閉会・記念撮影

助成グループ一覧（発表順）

部門	回数	助成グループ名	ページ
一般	1	01 ちよダン	2
一般	1	02 すなっくちよだ	3
一般	1	03 アマルフィーファーム	4
一般	1	04 一般社団法人ちよママ	5
一般	2	05 エンジョーイ 歌ンターレ CHIYODA	6
一般	2	06 tea plant club	7
一般	3	07 神田藍の会	8
普請	—	08 優美堂再生プロジェクト実行委員会 （令和2年度第20回助成）	9
	—	09 「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム （令和元年度第19回助成）	10

ちよだの合言葉となるダンスをつくろう



02



すなっくちよだ



サードプレイスのような
誰でも参加できる居場所づくり

【代表者】花岡 火草 【主な活動地域（場所）】千代田区全域

活動概要

千代田区内の飲食店やシェアスペースを貸し切り、1日スナックをオープンします。在住・在勤に限らず、広くイベント告知し、千代田区という場所をベースに新たなコミュニティ形成の空間を提供しています。年齢問わず、サードプレイスのような誰でも気軽にアクセスできる居場所づくりを目指しています。



発表概要

はじめて部門から数えて2年目になります。今年は、夏と冬の2回スナックを開店しました。

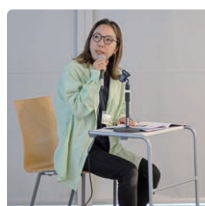
1回目は、千代田区役所10階「CAFE&BAR 桜日和」です。当日は、台風でスタッフも来れない状態だったため、心配していましたが、はじめての方も含め20名程度のお客さまがいらしてくださいました。

この「すなっくちよだ」は、千代田区が主催する「ちよだをつなげる女性30人」というプロジェクトから立ち上げたグループで、その時に知り合った方も参加されていたため、台風で来れないスタッフの代わりに、スタッフ以上にスタッフらしい働きをしてもらいました。

2回目となった冬は、千代田区富士見の東京大神宮の麓にある「カラオケ居酒屋 (RAKURAKU)」で開店しました。この会場での開店は3回目です。この会場だから来るという常連さんも生まれてきました。食べ物は持込み自由で、近くの中華料理屋などから、参加者それぞれが自腹でいろいろなお料理を持ち込み、にぎやかで楽しい雰囲気です。初めて来店した若い方は、「こうやって楽しむのですね。」とおっしゃっていました。個人的に面白かったのは、大学院でスナック研究していて、メンタリングとスナックを掛け合わせた研究をしたいと話されていた方です。メンタリングを取り入れるもの面白いと思うのですが、前面に出すと場の雰囲気を損なう可能性があるため、次回、裏テーマとして仕込んでみたいと思っています。また、当日は、来店者が多く、タロットやコミュニケーションカード（自分と相手の相性や自分を深掘できる）を用意したものの、カードを広げる十分なスペースが確保できず、結果としてタロットのみにってしまったことが反省点だと感じています。

町会の方、在勤者、区内小学校のPTA役員、学生、子育て中のママ、起業家、専門家など、さまざまな人が偶然集まって情報交換されています。仕事のこと、おいしいお店、地域の行事、育児、進学など、今まで知らなかった「へえ〜」や、少しだけハッピーになる発見があると考えています。お気に入りの映画を話すように、まちのことを話したくなるような、巡りの良い人と人とのコミュニケーションを大切にしていきたいです。

今後は、助成金に頼らず運営できる体制を整えていくことが課題と考えています。今回、多くのお客さまにご来店いただいたこともあり、安定した運営の可能性が見えて来たのではないかと考えています。



Comment



委員 とても楽しそうで、様々な方たちが参加されている様子が垣間見えたので、とても素晴らしいと思いました。SNSで告知されているとのことですが、今回参加された方は、どんなきっかけで参加されたのでしょうか。

助成グループ 基本的には、グループメンバーの知り合いが多いのですが、SNSを見て、初めて参加された方もいらっしゃいました。

委員 スナック研究の方は。

助成グループ グループメンバーの知り合いです。

委員 少しずつ知り合いが広がっていくようで、とても素晴らしいと思います。

委員 この場を通じて生まれた人のつながりが、別の場所での協働や連携につながった事例があれば、教えてください。

助成グループ 具体的にはわかりませんが、PTA役員の方も参加されていたので、参加者同士で学校に関する情報交換が行われていたり、マンションにお住まいの方が町会の方に入会方法について尋ねる様子が見られました。

委員 今後、この活動を継続されるにあたり、開催場所やその狙いなど、どのような展望をお持ちか教えてください。

助成グループ 会話も生き物のようなもので、会議室よりもスナックや飲食店の方が、理想的な場所だと考えています。最近足は運べていませんが、立ち上げ当初は千代田区内のスナックを巡っていました。今後も親しみやすい雰囲気のスナックを狙って開催していきたいと思っています。

03

アマルフィー ファーム

農業体験

【代表者】松田 憲明 【主な活動地域（場所）】六番町

活動概要

千代田区六番町にあるビルの空き地をファームとして利用し、農作業を通じた地域のコミュニティ形成を目的としています。種まき～育成～収穫という植物のサイクルを通して、農作業の大切さを体験し、日々目にしたり、口にしたりしている野菜や果物がいかに貴重なものであるかを再認識する等の食育的な観点や、地域の人たちと楽しく触れ合う機会をつくることを目指して活動しています。

発表概要

はじめて部門から数えて2年目となります。春夏秋冬でご紹介していきます。

まず、昨年3月、はじめて部門で助成を受けた際に植えた大根やブルーベリーを収穫しました。ちょっと小さい大根ですが、食べるには問題なく、これからはより大きなものを育てられればと思っています。

7月、夏になると、どうしても雑草が生えてくるため、雑草取りをしました。また、春に植えたナスを収穫し、活動内容がわかるように看板の制作もみんなで行いました。

8月、春ごろに植えたスイカが見事に育ちました。以前から隣の番町空手教室の方とも一緒に何かしたいとお話をしていたので、お盆の時期でしたが、教室に通う生徒の皆さんと一緒に収穫し、召し上がっていただきました。

10月には、ナスやメロンの収穫予定でしたが、虫に食われてしまい収穫できませんでした。

冬は寒く、新しい野菜などは植えませんでした。水やりや雑草の管理をしながら、活動を続けていました。

以上が1年間の活動内容になります。ファーム内にビオトープを作り、生き物などを観察する計画を立てていましたが、依頼していた方の家庭の事情により、計画を実現できませんでした。

農作業の活動以外には、ビル4階のレストラン（カフェ・アマルフィー）に活動内容がわかるパンフレットを置いており、興味を持った方にファームを見学していただいたほか、育てたミントをお持ち帰りいただきました。通年で10名弱の方が見学に見えています。

前年のはじめて部門からメンバーも増え、またメンバー以外の方との交流も生まれたことを嬉しく思っています。スーパーで売っているようなスイカを自分たちで育てられたことは、大変貴重な体験となりました。ただ、メンバーの中には、一度も参加しないまま活動が終わってしまった方もおり、スケジュール調整の難しさや個々のモチベーションの維持などに難しさを感じました。

今後は、より長く続けていける仕組みを構築できればと考えております。



Comment



委員 難しいかもしれませんが、千代田区内には活用できる土地の隙間があるので、少しずつでも農地のような形にして、皆さんが活動できる場を広げられればと思います。この活動が将来的に、新しい取り組みのきっかけになっていただければと思います。

お聞きしたいことは、ファームの賃借料30万円が助成金のかなりの部分を占めていますが、助成終了後の資金調達について検討されていますか。

助成グループ メンバーで会費を出し合うなどして、活動を継続できるのが一番良いと考えています。

委員 課題はあるとは思いますが、展望としては、六番町の空き地以外にも広げていきたいと考えていますか。

助成グループ 活動できる場所とメンバーが揃えば可能かもしれませんが。活動場所も六番町にこだわっているわけではなく、たまたま職場の裏に空き地があり、活動しやすかったことが理由です。

委員 メンバーのなかに、農業などの専門知識をお持ちの方や、活動をサポートしてくださる方はいらっしゃいますか。

助成グループ サポートメンバーは特にいません。必要な情報はYouTubeを見ながら解決しつつ活動しています。

一般社団法人 ちよママ

SNSを活用した千代田区の子育て情報発信および、 子育て世帯のネットワークづくり

〔代表者〕勝連 万智 〔主な活動地域（場所）〕千代田区全域

活動概要

Instagram・Facebook・LINEBusinessなどのSNSを活用し、子育て世帯向けの地域情報を発信しています。区内の最新情報を保護者目線でまとめ、タイムリーに共有することで、地域の情報アクセス向上に貢献しました。LINEでは毎週金曜に週末のお出かけ情報を配信し、Instagramではほぼ毎日イベントや施設を紹介。また、昨年に引き続きSNSの基礎知識や動画編集を学ぶ講座を区内で開催し、各種アプリの機能も学習しました。今年新たに配信メンバー同士の交流会も実施し、情報発信の輪を広げる機会を作っています。昨年以上に活動の幅を広げ、より多くの方に役立つ情報を届けることができたと考えています。

発表概要

誰でも平等に情報を得られる機会の創出を目的に活動しています。千代田区には約6万人の住民がいて、そのうち0～11歳のお子さんを持つ世帯は約5,000世帯、全体の約8%を占めます。千代田区には毎年1万人が転入し、7,000人が転出しており、転入者の約8%（800人ほど）が、子育てに何らかに関連する方たちになります。ちよママでは、千代田区に新たに転入したばかりで、右も左もわからない状況で子育てをしなければならない方たちに対して、子育てに関する情報を提供するHUBとなり、千代田区での子育てをサポートすることを目指して活動しています。

主な活動としては、SNSを活用して千代田区内のイベント情報を発信しています。

FacebookやInstagramでは、千代田区内の公園や飲食店、習い事など、地域の役立つ情報をお届けし、LINEBusinessでは、毎週金曜日に週末のイベント情報を配信しています。週末ごとに情報を更新するのは大変な作業ですが、イベントでお会いする保護者の皆さんから「助かっている」という言葉をいただくので、これからも継続して発信していきたいと考えています。

イベント情報の発信以外にも、SNS講習会を3回開催することができました。

この1年間の活動を通じて、SNSを見ている方たちがリアルに生活のなかに取り入れ、利用していただいていると実感することが多くなりました。お声を掛けていただく機会も増えています。例えば、虎ノ門のカフェをSNSで紹介した際、来店した方が「ちよママのSNSを見て来店した。」と伝えたところ、お店の方が「お隣のお客さまもそうなんです。」と驚かれる場面があったそうです。また、「週末のイベント情報を頼りに遊びに行っています。」との声もいただいています。

今年4月から第3期として8名の配信メンバーにご応募いただきました。そのうち約6名の方が、「SNSの情報に助けられたので、今度は発信する側になりたい。」との思いで応募してくださったので、大変嬉しかったです。

来年も引き続き頑張りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



Comment



委員 情報ネットワークの要として機能されていて、素晴らしいと思いました。

発信をする情報はどのようなところから集めているのですか。

助成グループ 配信メンバーの周辺情報を掲示板や区報、ネットなどから収集しています。配信メンバーも子育て中で、自分自身が必要とする情報でもあるため、自ら進んで情報を集めてくれます。それとは別に、ちよママのホームページには、イベント告知フォームを用意していて、毎月約10件の投稿があります。内容確認のうえ、配信しています。

委員 助成金がなくなった後、この活動にかかる資金はどうされる予定ですか。

助成グループ 資金については、課題だと思っています。今後も持続可能な活動にする必要があるため、助成金に頼らず継続できる仕組みについて、是非、皆さんにご意見をいただきたいと思っています。動画をアップすることで収益を得ることが本当に良い方法なのか。協賛金をいただいた方の情報をSNSで定期的に紹介するなど、助成金がなくなった後も活動を継続していく方策として、皆さんにとって最もしっくりくる形が何なのか、まだ答えが見つかりません。

SNSのプラットフォームとしては、とても強くなったアカウントだと思っているので、来年度、採択していただいた場合は、いろいろな地域に貢献していきたいと考えています。

また、これまでは投稿内容をママさんたちに任せることが多かったため、それが課題となっていました。来年度は、ちよママ事務局が積極的に企画し、例えば千代田区内の商店からの依頼を受けて直接訪問し、その様子をSNSで紹介したり、「〇〇祭りに行ってみた!」といった動画を投稿するなど、仕掛けていきたいと考えています。

05

エンジョイ 歌ンターレ CHIYODA

(た)楽しく(ち)力強く(つ)繋り
(て)手を取り(と)ともに千代田で歌おう

【代表者】加藤 茜 【主な活動地域（場所）】番町麹町地域

活動概要

千代田区には今も昔も多くの音楽家が在住しています。

山田耕柞、瀧廉太郎など、日本を代表する音楽家が、千代田区在住だったという事実があまり知られていないように感じます。「歌う」「知る」「聴く」を柱に、千代田区ゆかりの音楽家を知り、一緒に千代田区の音楽家の作品を歌うことにより、千代田区民の交流を深めることを目的に活動しています。

発表概要

千代田区内には、たくさんの音楽家が住んでおり、千代田区歌を作曲し、日本で初めてオーケストラを創設した山田耕柞もその一人です。千代田区民だけでなく、区外の方にも千代田区ゆかりの音楽家を知っていただきたいという思いから、以下の3つを柱に活動しました。

「歌う」 千代田区ゆかりの音楽家の歌を歌うこと。

「知る」 千代田区ゆかりの音楽家や文人を巡るまち歩きツアーや、レクチャーコンサートを通じて、音楽家の方たちを知ること。

「聴く」 千代田区ゆかりの音楽家の合唱コンサートを聴くこと。

「歌う」では、千代田区ゆかりの音楽家の歌を歌う会を4月から7月にかけて、計8回開催しました。コンサート開催日が決まっておらず、参加者も少なくなる傾向があったため、一旦休止していましたが、3月開催のコンサートに向けた練習を1月から再開しました。

「聴く」では、予定していたいきいきプラザ一番町が改修工事に入ることとなり、番町地域で活躍していた音楽家をテーマにしていたため、番町エリアにこだわり、番町教会をお借りし、3月24日に合唱コンサートを開催しました。当日は、来場者60名と出演者9名が集い、プロ合唱団の協力も得ながら、普段なかなか聴くことのできない千代田区のゆかりの作曲家の音楽を楽しんでいただきました。

「知る」では、チェンバロのレクチャーコンサートを万世橋区民館で開催しました。楽器店が多く、音楽のまちでもあるお茶の水には、日本で初めて本格的なチェンバロ工房を立ち上げた方が神保町出身だったという歴史があります。そのご縁もあり、その方の知人にチェンバロのレクチャーと演奏をしていただきました。また、番町まち歩きツアーを開催し、4名の方にご参加いただきました。

活動における課題としては、こんな素敵なものを新しく知ることができたと感動して下さる方がいる一方で、メンバーの定着が難しく、またプロの方たちの協力もあるため、協賛金を募るなど、継続のための資金確保が必要です。さらに、コンサートの会場決定が直前になることで、広報が難しく、より多くの人に知ってもらい、イベントに足を運んでもらうための工夫が必要だと考えています。



Comment



委員 アンケートの「活動での課題」に対して、他グループに比べて多くの項目にチェックが入っていますが、一番の課題は、資金面ではないかと感じました。将来的に、コンサート来場者から参加費をいただくことも想定されていますか。

助成グループ 現在開催しているコンサートは、無料で実施できる内容ではありません。助成金をいただいているので、参加費3,000円程度のコンサートを無料で開催できています。

委員 3,000円でも厳しいそうですが、経費面は問題ないでしょうか。

助成グループ 確かに難しい部分はありますが、参加費を高く設定すると興味のある方だけになってしまうため、広く知ってもらうという目的から外れてしまうと考えています。

委員 そのあたりを助成期間に試行錯誤されるということですね。

助成グループ できるだけ気楽に楽しんでいただきつつ、質の良いコンサートを提供できるよう工夫していきたいと考えているところです。

委員 廃校になった学校の校歌を紹介する計画を検討されているようですが。

助成グループ 取り組みたいと思っていますが、私自身その方面のつながりがないため、その点を解決しないと実現は難しいかもしれません。

委員 助成グループのネットワークを活用していただきたいです。期待しています。

tea plant club

メイドイン千代田の 紅茶づくりプロジェクト

【代表者】加藤 幸子 【主な活動地域（場所）】千代田区全域

活動概要

メイドイン千代田の紅茶作りを目標に活動しています。活動の基本である「茶の木の栽培」に関しては、現在、「駿河台三井住友海上ビル」、「番町の森」、「興産信用金庫市ヶ谷支店」の3か所において、プランターを用いた栽培を行っており、九段下「かがやきプラザ」5階のテラスでは、直植で50株ほど栽培しています。また、お茶の魅力を区民の皆さまに広く知ってもらい、活動の仲間を募ることを目的とした各種イベントを開催しています。

発表概要

駿河台三井住友ビルと番町の森の苗については、高さ枝ぶりともに順調に生育し、1メートルほどに成長しました。一方、興産信用金庫市ヶ谷支店に設置した2株のうち1株は、残念ながら生育不足で撤去することになりました。今年度から運用をはじめた「かがやきプラザ」の茶畑は、30cmほどに成長しており、強い日差しを遮るための遮光ネットの設置のほか、葉を食べる害虫（ダンゴムシ）発生による除去作業を行いました。

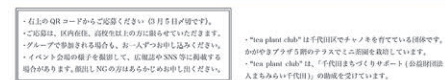
また、当初より心配していたのですが、屋上庭園特有のビル風の影響による枝の損傷や手入れの際の切り口などから感染する病気（赤焼病）が発生しました。伝染するため、一部の枝を手作業で切り、この春の状況を見て難しい枝については、差替える予定です。今後も油断せず、観察と手入れを継続していきたいと考えています。

今回初めての試みでしたが、千代田区社会福祉協議会と連携し、「かがやきプラザ納涼祭」と「かがやきプラザクリスマスイベント」に参加させていただきました。紅茶の販売を行うとともに、tea plant clubの活動を広めるための広報活動にも取り組みました。同施設内で育てている茶畑を実際に見てもらえるため、活動内容がより分かりやすく伝えることができたと感じています。

主催イベントとしては、番町の森で試験的に1家族（4名）を招待し、茶摘み体験を実施しました。また、「レアな紅茶の飲み比べ」では、男性やご夫婦での参加が見られ、これまで以上に関心を持つ方の層が広がってきたように感じました。紅茶を楽しむだけでなく、茶葉の栽培にも強い関心を持つ方が多く参加されました。

交流の一環として、苗を設置していただいている興産信用金庫神保町支店に紅茶を差し入れ、「紅茶を楽しむ会」開催しました。また、千代田区立障害者福祉センターえみふる「ちよだんごカフェ」とも交流し、カフェで提供されている紅茶についてお話をいただき、将来的にはメイドイン千代田の紅茶も楽しんでいただけると良いですね、というお話をしました。

さらに、グループ代表者が所属している紅茶学会にて、「東京都心部におけるミニチュア茶畑と茶とつながるコミュニティの快適性」というタイトルで研究発表をさせていただきました。朝日新聞社、日本農業新聞社や生産者の方にも活動を紹介し、広くアピールする機会となりました。



Comment



委員 困難な環境のなかで、試行錯誤しながら活動されているが伝わりましたが、現在のグループメンバーとしては何人ですか。

助成グループ 現在7名で活動しています。イベントではメンバーになりたいという声もありますが、実際には水やりなど地道な作業が多く、2回目以降参加が難しい状況です。

委員 楽しみながら無理のない範囲で興味を持つ方もいます。活動の持続性にもつながるので、工夫しながらメンバーを増やしていけると良いですね。

委員 市ヶ谷支店でのイベントについては、興産信用金庫の本部にも話が伝わって来ていました。このように、人づてに広まることで活動が大きくなっていくこともあるので、今後もイベントがあれば、ぜひ紹介させていただきたいと思います。

07

神田藍の会

神田を藍(愛)でいっぱい2024
～ Ai Love KandA ～

〔代表者〕伊藤 純一 〔主な活動地域（場所）〕神田地域

活動概要

藍を育てることを通じて、心身のストレスの軽減し、子どもから高齢者までが日常やイベントで顔をあわせるきっかけとなり、ともに学び育てる楽しさを共有できると考えています。藍は人と人、人と街、人と歴史・文化を結びつける役割を果たしています。

さらに、栽培を通じて街のさまざまな場所で長期的な視点での交流を育み、個人から企業同士までも結び合わせることで、課題の軽減をサポートします。同時に、会として自律する仕組みを構築し、多様な方が主体的に関われる活動を目指しています。



発表概要

かがやきプラザのテラスや興産信用金庫、九段生涯学習館などで、生分解性ポットを使って藍を育てる活動を行い、自分たちで育てたという喜びを共有しています。また、イベントでは生葉染めや乾燥葉染めを実施し、高齢者だけでなく、学生さんや小学校の子どもたちにも広げていくべきだとのアドバイスを昨年度の活動成果発表会でいただいたことから、学生さんや保育園児などとも活動をしています。さらに、川端緑道BATON PARKに参加し、丸の内地域の方々や海外の方々にも活動を紹介しました。そのほか、商品化の可能性についてもアドバイスいただきましたので、大妻女子大学で藍グッズ制作やアイデア出しの交流会を開催しました。

そのほかにも、町会や企業のイベントやお祭りなどに参加し、子どもたちや地域の方々とも交流を深めています。また、神田明神や柳森神社でも藍を育てていただいており、近くの保育園のお子さんたちと一緒に藍を愛で、神田明神でのご祈祷に行くという交流もさせていただきました。

おかげさまで、「これをやりたいからついてきてほしい」というスタイルではなく、藍という植物や藍染を通じた交流を大切にする活動であることを理解したメンバーが集まり、メンバー全員で会の方針や今後の展開を考えながら、活動を継続しています。その結果、自然発生的に関わる人が増え、活動が広がっていくことに面白さを感じています。

主要メンバーについては、活動だけでなく、育てることを通じて自らの活動の場を築きたいという思いのある方たちです。定例会では、資金面、グッズ化、会費制度など新たな取組みについても意見がでています。

今期で3年目の助成が終了しますので、栽培活動のみならず、多様な方が関わる場を創出することを目的とした活動へと発展させていこうと考えています。先日の定例会でも会員制度の導入など、今後の活動計画等もまとまりつつあり、チームとして引き続き活動を継続していきたいと思っています。



Comment



委員 藍染製品を販売されていますが、材料費や作成費などを差引いたうえで、今後の活動資金として活用できる見込みはありますか。

助成グループ 過去3年間のイベント等で販売した製品については、交流活動のなかで製作したもので、材料費のみをいただいています。今年度は、川端緑道BATON PARKで、海外の方が大量に購入されたこともあり、売上が伸びました。今後、材料費をどのように捻出するか検討していて、会員制度の導入や必要な費用をいただくなど、透明性を持って運営する必要がありますと考えています。

委員 ひと月の間に、さまざまな活動をされていますが、担当制ですか。

助成グループ 担当制ではなく、定例会に参加するメンバーが中心となり、メンバーの仲間やそれ以外の方たちにもお声掛けをして、それぞれのチームを作っています。そこからさらに新たなチームが自然に生まれていく形で、固定化はしていません。

委員 とてもオープンな活動で、ネットワークが広がっていると感じました。現時点では、活動が好きな皆さんがボランティアとして活動されているという理解でよろしいですか。今後その方針を続けていかれるのでしょうか。

助成グループ 基本的に会の主体としてはその方針ですが、仲間同士が活動をその先の仕事につなげたり、新しいものを生み出すことは自由にできるようにしています。

優美堂再生プロジェクト 実行委員会

優美堂を再生しコミュニティ形成拠点として
多様な文化活動を誘発する。

【代表者】中村 政人 【主な活動地域（場所）】優美堂（神田小川町2丁目）

活動概要

絵画の額縁店・ギャラリーで、住居でもあった優美堂を世界のアーティストが滞在制作するアーティストレジデンスプログラム（AIR）を通じて、地域コミュニティの国際文化交流が生まれるクリエイティブサロンとして再生しました。建物は構造補強をして、木造建築を生かした工法で、リノベーションしています。

発表概要

優美堂では、カフェとギャラリー機能を活かしたコミュニティスペースとして、さまざまなプログラムを企画・制作しています。本日は、その取り組みの一部をご紹介します。

地元の方やメンバーなどから推薦された作家の方が展覧会を開催しており、例えば、個展「窓の外（2024年9月12日～12月17日）」の鍋島美千乃さんは、初めての個展を優美堂で開催しました。鍋島さんは、手先がとても器用で、つまみ細工や和の小物を制作されていて、優美堂の活動にも参加されています。作家の方々は、週に数回優美堂を訪れ、お客さまとコミュニケーションを取りながら作品制作を行っています。その他にも、アーティストレジデンスプログラム（AIR）で滞在されている海外の方も作品展示をされています。

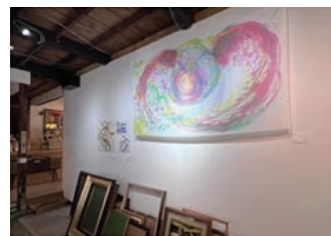
また、千代田区障害者よろず相談Light主催の「オーライ展（2025年3月14～16日）」では、都内11か所の精神科病院に入院されている方たちの作品が展示されました。初めて優美堂を訪れる方も多く、作品だけでなく、建物の雰囲気も楽しまれていました。

展覧会のほかにも、併設のカフェでは「地域の旬の食材シリーズ」と題して、シャインマスカットや苺、有機野菜などの店頭販売を行い、スイーツやランチを提供しています。特にシャインマスカットを使ったスイーツが大変好評で、SNS等でも拡散され、提供できない冬の時期でも問合せがあるほどでした。

また、地元の男子校・正則学園「花いけ男子部」は、暑い日も寒い日も毎週生花を持参し、店頭ショーウィンドーでライブ展示を行っています。

優美堂は、木造建築であり、富士山の看板建築が特徴的な建物として多くの方に注目していただいています。入りづらいとお声もいただくので、できるだけ敷居を低くし、幅広い方々に参加していただけるプログラムを企画・実施しています。

活動期間は5年間の限定プロジェクトであり、残りあと1年余りとなりますが、少しずつ関わってくださる方々も増えてきています。誰もが気軽に訪れやすい場所として、これから活動していきたいと思っています。ぜひ、足を運んでみてください。



Comment



委員 各イベントの主催者の方たちとは、どのように関係を築いていったのか教えてください。

助成グループ 展覧会については、優美堂が主体となって企画していますが、食に関する取組みについては、「せっかくなら美味しいものを提供したい。」という思いから始まりました。例えば、苺については、「富士山の形のかき氷を作りたい。」というアイデアが初めにあり、それを実現するために苺農家の方を探したことで、地域の方たちとの繋がりが生まれました。また、スタッフのお母さんが野菜を栽培しているなど、人と人との関係を通じて自然に広がっていった形です。

委員 優美堂を中心としたコミュニティのなかで企画が生まれていくのですね。

助成グループ お客さんからご紹介いただくこともあります。

委員 アーティストレジデンスの参加者は、優美堂で作品制作を行い、宿泊もされるのでしょうか。

助成グループ 参加された方が写真のアーティストが多かったため、優美堂で制作は行っていない。展示は、優美堂の2階を活用していただきましたが、宿泊については、実現できていません。



「神田珈琲園」 再生プロジェクトチーム

JR神田駅高架下で創業60年、
地域に愛され続ける『神田珈琲園』の再生

【代表者】 八戸 建 【主な活動地域（場所）】 神田珈琲園（鍛冶町2丁目）

活動概要

神田珈琲園では、「時間と場所の提供」をしています。展示ギャラリーや地域の交流・活用スペースとして利用していただくほか、まちの情報発信のHUB的な役割を担うなど、地域コミュニティの場を提供しています。

発表概要

普請部門で助成を受けてから早5年、とても充実した5年間です。

神田駅高架下で60年以上営業してきた神田珈琲園ですが、JR高架耐震補強工事にともない、撤退を余儀なくされました。しかし、この場所への強い思いから、建替えによる再生を決断し、千代田まちづくりサポートの助成を受けました。

そのなかで、クラウドファンディングに挑戦したり、常連客とのコラボ企画、鉄道落語会や展示会を開催するなど、さまざまな取り組みを行い、地域とのつながりを深めてきました。

最近のニュースとして、同じ町内にある鍛冶町二丁目の老舗喫茶店「Tampopo」が閉店し、その場所に地域の活動拠点「watage」が誕生しました。ここで、ユースチャレンジの一環としてトリマ珈琲のオリジナル商品開発に携わっています。また、JR御茶ノ水駅にオープンした「エキュートエ디션御茶ノ水」限定の「おちゃのぼカプセル」に、人気メニューのガチャが登場しますので、ぜひ、挑戦してみてください。

このように皆さんに支援されて、継続している空間です。まちサボグループをはじめ、地域の皆さんに積極的に活用していただきたいと願っています。これからも温かいご支援をよろしくお願いいたします。

それでは、オーナーの八戸さんの動画を撮影してきましたので、ご紹介します。

【神田珈琲園オーナー 八戸 建 氏】

あっという間の5年間でした。リニューアルオープン当初、コロナの影響で街も人の生活も大きく変わり、とても不安でしたが、多くの方たちから励ましの声や頑張れというエールをいただき、なんとかオープンにこぎつけました。

懐かしい方たちから明るい笑顔で迎えられたことが励みとなり、自分も頑張ろうという気持ちになりました。また、馴染みのお客様だけでなく、新しいお客様など、世代を超えて幅広い方たちに来ていただきました。

さらに、神田地域との関わり方について、大学生の皆さんと一緒に考える機会をいただき、「その場所を好きになること」が地域の方たちをつなぐテーマであると学びました。

珈琲文化を広めるため、67年前に母が開いたこの店ですが、時代の流れで喫茶店も減少し、喫茶店文化も薄れつつあります。しかし、「母は攻める、僕は守る」という姿勢で、喫茶店文化を継承し、「珈琲を通じてすべての人を笑顔にする」をモットーにこれからも頑張っていきます。

最後に、今期は改装前の売上を上回る見込みとなりました。これもひとえに皆さまの笑顔とご協力、そして温かいエールのおかげです。本当に皆さまのご協力感謝しております。

ありがとうございました。



Comment



委員 着任時に訪問し、歴史ある場所に喫茶店があるということが神田の魅力につながっていると思いますので、今後もこの場所が継続されていくことを期待しています。

イベントの開催頻度や利用申込みの状況を教えてください。

助成グループ 物価高騰の影響もあり、お店の営業が忙しく、場所の活用よりも、最近はコラボ企画が増えています。近くの専門学校でまちづくりの講義を行ったり、ワークショップに参加したりと、地域との関りを深めています。

オーナーとしては、さまざまなイベントを仕掛けたい意向はあるものの、営業に追われる日々が続いています。また、当初計画していた認知症カフェが実現できていないため、今後、取り組んでいきたいと考えているそうです。

第24回 千代田まちづくりサポート大賞発表



サポート大賞は、「**神田藍の会**」が受賞されました。



「神田を藍(愛)でいっぱい」に2024～Ai Love KandA～」をテーマに神田に縁の深い「藍」の栽培やイベント活動を行い、地域の方たちとの交流やコミュニケーションの場を創出することを目的に活動を行っているグループです。

3年連続でサポート大賞を受賞され、今期で卒業となりますが、今後のさらなる活躍を応援しています。



この3年間、本当に多くの方に支えていただき、心から感謝しています。

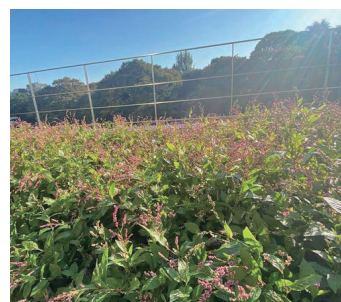
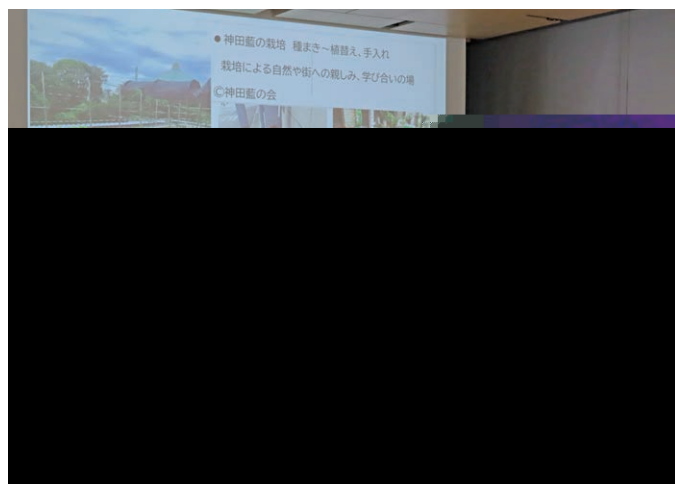
「自由に楽しく活動しましょう」と気軽に始めた会でしたが、助成金をいただき、千代田区のコミュニティ形成に貢献

する機会を得たことで、少し背中に重たいものを感じることもありましたが、初志貫徹でゆるやかに活動できたことが、結果的に良かったのではないかと思います。

私たちでできることは限られていましたが、多くの方にお知恵やお力を貸していただき、本当に助けられました。実業の仕事とは違う価値観を感じた3年間でした。

これからもできる限りのこの活動を続けていきたいと思います。

本当にありがとうございました。



審査会委員講評



会長 後藤 智香子

発表時間5分では皆さんの活動紹介には十分ではなく、それだけ充実した活動だったのだと感じました。第24回の応募時の発表を聞いていないため、活動計画の詳細は把握できていませんでしたが、今日の発表を通じて、仲間が増え、テーマや場所も広がっていることを強く感じました。

「ダンス」「歌」「食」など、千代田区の資源を掘り起こし、発信し、新しいものを育てて発信するというスタイルは、非常に特徴的で、私自身も大きな刺激を受けました。

3年目を迎えたグループもあり、活動資金の面で難しさを感じることもあるかと思いますが、ぜひ、このご縁を大事に、ぜひ気軽にご相談ください。先輩方のつながりも生かしながら、今後の活動を広げていっていただければと思います。まずは、お疲れ様でした。ありがとうございました。



副会長 三友 奈々

会長がお話しされた内容と重なりますが、皆さんの活動が充実しているからこそ、助成がなくなった後の資金面が心配です。助成開始時には試行錯誤を重ねてこられたと思いますが、神田珈琲園さんがコロナ禍や物価高といった困難を乗り越え、活動を継続されている姿を拝見し、あらためて皆さんの努力を感じました。

今後も想定外のことが起こるかと思いますが、柔軟に対応しながら乗り越えていただければと思います。

会長からのお話もありましたが、私共だけでなく、運営事務局や区役所をはじめ、さまざまなサポート体制がありますので、気軽に頼っていただきながら、これからも活発な活動を続けていってください。応援しています。

※第24回千代田まちづくりサポートについては、事業の見直し検討を行うため、新規募集を休止しました。そのため、審査会による公開審査でなく、運営事務局による審査で助成グループを決定しました。

第25回審査会委員

後藤 智香子	東京都市大学 環境学部 環境創生学科	准教授（工学博士）
三友 奈々	日本大学 理工学部 土木工学科	助教（工学博士）
高道 昌志	東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科	助教（工学博士）
谷 真理子	元「千代田区青少年委員会会長」	
関 真弓	NPO法人都市住宅とまちづくり研究会	理事長
星野 諭	（一社）移動式あそび場全国ネットワーク	代表
田熊 哲也	興産信用金庫 地域支援部 お客様支援課	地域振興担当課長
赤海 研亮	千代田区役所	地域振興部コミュニティ総務課長

※本発表会では、一部の委員にオブザーバーとしてご参加いただきました。





賛助会員一覧 (2025年7月現在)

法人会員

建設業	株式会社楠山設計 株式会社久保工 株式会社竹中工務店 (一社)東京都建築士事務所協会 千代田支部 株式会社ナカノフドー建設 日産緑化株式会社	不動産業	株式会社 AZWAY エヌティティ都市開発株式会社 東京建物株式会社 プラットフォームサービス株式会社 三菱地所株式会社 安田不動産株式会社
製造業	株式会社イガラシ 株式会社イサミヤ 瀬味証券印刷株式会社 東京スクリーン株式会社 株式会社日精ビーアール 日本たばこ産業株式会社 渉外部 東京担当 ノーラエンジニアリング株式会社 ハネクトーン早川株式会社 株式会社ムレコミュニケーションズ 有限会社メカノトランスフォーマ ヤマノ印刷株式会社 LightBank 株式会社	サービス業	株式会社アール免震 株式会社 i-tec24 株式会社弘周舎 株式会社インフィニティエージェント
卸売・小売業	鈴木治作株式会社 鈴新株式会社 株式会社トキワ 株式会社ユニフォームネット	その他	石塚株式会社 株式会社グリーンエコエナジー・アセットマネジメント 株式会社コンベンションリンケージ ソホビービー株式会社 株式会社 TALO 都市企画 株式会社 TMMC 一般社団法人 千代田区観光協会 東洋美術印刷株式会社 NPO 都市住宅とまちづくり研究会 株式会社バイオレンジャーズ ビヨンドネクストアカウンティング株式会社 株式会社フィレール 株式会社 mitsuki 株式会社メイクワン 株式会社リブリッジ
情報通信業	コンプライアンス・データラボ株式会社 株式会社メディアリンク		
金融業	株式会社きらぼし銀行 神田中央支店 興産信用金庫 西武信用金庫 神田支店		
保険業	株式会社 FEA ぜんち共済株式会社		

個人会員

池 俊郎 伊澤 優 加藤 武夫 小林 誠
佐藤 直樹 瀬川 昌輝 立山 光昭 堀部 剛正
ほか5名

法人：54 個人：13 計：67

※助成金の一部は賛助会員からの賛助金が活用されています。

千代田まちづくりサポート通信 No.43 発行 2025年7月

発行者 公益財団法人まちみらい千代田 協働まちづくり・総務グループ（まちづくりサポート事務局）
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
URL <https://www.mm-chiyoda.or.jp> TEL 03-3233-7556 E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



まちサポ
特設サイト



この冊子は環境にやさしいFSC®森林認証紙を使用しています。